

平成28年12月定例会市議会市政報告

市政報告に先立ちまして、一言ご挨拶させていただきます。

私は、去る10月23日に執行されました釧路市長選挙におきまして、多くの市民の皆様から温かいご支援を賜り、引き続き市政運営の重責を担わせていただくこととなりました。

釧路市の持続的な発展のため、全身全霊で市政運営にあたっていく所存でありますので議員各位並びに市民の皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

それでは、9月定例会市議会以降の市政の概要についてご報告申し上げます。

最初の報告は、「釧路市まちづくり基本構想の策定状況」についてであります。

新たなまちづくりの指針となる「釧路市まちづくり基本構想」の策定にあたり、今年7月に、今後のまちづくりなどについて、市民、中学生、企業、各種団体、長期滞在者を対象にアンケート調査を実施いたしました。

主な調査結果として、市民アンケートにおける「釧路市への愛着」の質問については、86.8%の方が「釧路市に愛着や親しみを感じている」と回答されており、10年前の結果と比較しますと3.5ポイント増加した結果となっております。

また、「まちづくりや住民活動への参加意向」の質問については、77.8%の方が「まちづくりに参加したい」と回答されており、10年前の結果と比較しますと2.7ポイント減少した結果となっております。

結果につきましては、市のホームページに掲載しているほか、主要な公共施設にアンケート調査報告書を配置しております。

今後、これらのアンケート結果を踏まえ、議会、まちづくり基本構想策定市民委員会からの意見をお聞きしながら釧路市まちづくり基本構想の策定を進めてまいります。

報告の第二は、「道内鉄道事業における単独で維持することが困難な線区」についてであります。

去る11月18日、JR北海道は、釧網本線及び釧路根室間の根室本線を含む10路線13線区を、単独では維持困難な線区として発表いたしました。

鉄道路線は、大量・高速輸送を担う交通ネットワークの基軸として、道内の人流、物流、観光を支える、なくてはならない社会インフラであることから、一つの地域の問題としてではなく、北海道全体の問題として捉えていかなければならないものだと考えております。

広域行政を担う北海道においては、有識者、自治体関係者等で構成する組織を立ち上

げ、北海道の鉄道網のあり方や鉄道交通網の形成に伴う課題などについて、検討を行っているところであり、市といたしましては、この検討状況の把握に努めるとともに、今後とも北海道市長会や関係自治体と連携し、必要な対応をとってまいりたいと考えております。

報告の第三は、「**文苑地区連合町内会の結成**」についてであります。

去る11月8日、文苑地区の7町内会で組織する文苑地区連合町内会が結成されました。

新たな地区連合町内会の結成は12年ぶりであり、これにより41の地区連合町内会となったところであります。

文苑での地区連合町内会結成を牽引いただいた単位町内会、釧路市連合町内会の役員皆様のご尽力に深謝申し上げますとともに、市としても引き続き釧路市連合町内会と連携し、地区連合町内会未組織地域の解消や町内会活動の推進に取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第四は、「**観光立国ショーケースの取り組み状況**」についてであります。

11月8日に関係省庁連携支援チーム（観光庁他11省庁）とショーケース選定3市（長崎市、金沢市、釧路市）による意見交換が行われ、関係省庁からは補助メニュー等の紹介があり、選定3市からは現在の取り組み状況の報告を行ったところであります。

また、11月24日にはANAクラウンプラザホテル釧路にて「観光立国ショーケース市民フォーラム」を開催し、多くの市民の皆さんと関係者、あわせて170人の参加をいただきました。

フォーラムでは、観光庁の観光地域振興課長の後藤様より、「観光に関する最近の話題」、北海道の観光振興監の木本様より「北海道の観光戦略について」のご講演をいただき、釧路市からはショーケースの取り組み状況について報告をいたしました。

次に、観光立国ショーケースに選定された3市の連携した取組といたしまして、金沢市から提案のあった「首長サミット」を来春、開催する予定となっております。今後の外国人観光客の更なる誘客と、市民意識の醸成につなげてまいりたいと考えております。

。

報告の第五は、「**釧路市・帯広市・網走市連携台湾トップセールス**」についてであります。

釧路・帯広・網走の3市は、所在空港を利用した広域観光周遊ルート構築に向けた事業などを実施し、「ひがし北海道」への観光客誘致に取り組んでいるところであります。

この度、11月8日から12日にかけて、帯広市長・網走市長とともに台湾においてトップセールスを実施いたしました。

今回のトップセールスでは、「ひがし北海道」のブランド力と当エリアの魅力を最大限PRし、更なる誘客促進を図るため、3地域の観光関係団体の皆様にもご参加をいただき、各航空会社と旅行会社などを訪問し、国際チャーター便の運航や観光客誘致に対する協力要請を行ってまいりました。

訪問した各社からは、国際チャーター便の就航予定や可能性、旅行商品造成についての前向きなお話を伺ってきたところであり、今後における誘客に大いに期待するところでもあります。

また、9日には台北市、11日には高雄市で、旅行会社を対象に「観光セミナー」を開催し、道央・道南には存在しない「ひがし北海道」の魅力をしっかり伝えてきたところでございます。

今後とも、「ひがし北海道」各地域の協力関係を益々強固なものとし、国際チャーター便の就航など外国人観光客の誘致促進に向けて、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

報告の第六は、「**第74回国民体育大会冬季大会の釧路市開催**」についてであります。

去る11月9日、日本体育協会理事会において、北海道が第74回国民体育大会冬季大会の開催地として正式決定され、釧路市においてスケート競技会・アイスホッケー競技会が開催されることとなりました。

これまでの地元競技団体と連携した誘致活動が実を結んだものであり、大変うれしく思っているところであります。

会期は、平成31年1月下旬の5日間の予定であり、具体的には、日本体育協会、北海道との調整を経て決定される運びとなります。

競技種目は、スピードスケート・フィギュアスケート・ショートトラックスピードスケート・アイスホッケーの4種目であり、市内の4施設を会場に開催され、参加者数は選手、監督、役員で約1,800人を見込んでおります。

本市での冬季国体の開催は、平成22年の「くしろサッポロ氷雪国体」に次いで4度目の開催となり、全国から集う選手の皆様が、ベストコンディションで競技に臨めるよう準備を進めてまいります。

また、過去3回の国体同様、選手、監督、役員をはじめ、全国各地から多くの方々の来釧が予想されるところであり、釧路の魅力を発信するとともに来釧される皆様を「おもてなしの心」をもってお迎えし、併せて地域経済へのプラス成長につなげてまいりたいと考えております。

本国体の開催を通じて、本市における氷上競技の普及振興、競技力の向上が図られ、「氷都くしろ」の名がさらに高まるとともに、各競技における熱戦は、子どもたちに夢と希望を与え、市民に感動をもたらすものと期待しております。

報告の第七は、「**工事発注状況**」についてであります。

本年度の建設事業の発注予定額は、約117億5千万円となっており、11月末現在における発注済額は約111億円であり、発注率は、約94.5%となっております。このうち、地元企業への発注は、金額で約100億円、率では約90.1%であります。

主な建設事業別の発注率につきましては、道路事業が約99%、上水道事業で約97%、下水道事業で約76%、住宅建設事業は100%の状況となっております。

以上で、市政報告を終わります。